



全農教

日本帰化植物友の会通信



NO.11 [2013年10月13日発行]

ハイコウリントンポポ *Hieracium pilosella* L. の逸出

植村修二

ミヤマコウゾリナ属 (*Hieracium*) は、欧州を中心に約 800 種が分布しており、わが国には、ミヤマコウゾリナ *Hieracium japonicum* Franch. et Sav., ヤナギタンポポ *H. umbellatum* L. の 2 種が自生し (北村 1981), 欧州原産のコウリントンポポ *H. aurantiacum* L. (syn. *Pilosella aurantiaca* (L.) F. W. Schultz et Sch. Bip.), キバナコウリントンポポ *H. caespitosum* Dumor. (syn. *H. pratense* Tausch, *P. caespitosa* (Dumort.) P. D. Sell et C. West) が帰化し、気候が寒冷な北海道や東北地方などに定着している (長田 1972, 清水 2003)。

最近、この 2 種のほかに、観賞用として導入された本属植物の逸出の記録がある。ウズラバタンポポ *H. maculatum* Sm. は、その栽培品種レオパード 'Leopard' の実生に由来すると思われる逸出個体 (図 1) が神奈川県 (浜口 2001) などから報告されている。また、今回題名にあげた *H. pilosella* L. (syn. *P. officinarum* F. W. Schultz et Sch. Bip.) は、花卉または地面を被覆するグランドカバープランツとして導入され、その逸出が北海道 (五十嵐 2010, 持田 2012), 宮城 (菅野 2010), 群馬 (増田 2012), 石川 (本多 2012), 三重 (中山 2004), 兵庫 (植村 2010, 水田 2012), 岡山 (小橋 2010) など各地で報告されている。*H. pilosella* L. については、和名や学名について混乱があり、整理しておく必要がある。

H. pilosella L. は欧州に広く分布している。小型のロゼット状の植物で、盛んに走出枝 (ランナー) の伸ばして旺盛に子株を作って繁茂し、地表面をマット状に覆い尽くす。葉は無柄で、倒卵形~楕円形、長さ 2~5 cm (Sell et Went (1964) では、最大 12 cm とある), 幅 0.5~2 cm, 両面に白い長毛, 裏面に白い細毛が生える。花茎は直立し、高さ 20~30 cm, 先に径 2~3 cm, レモンイエロー色の舌状花のみで構成される頭状花を単生する (まれに 2 個つくともあるが筆者はまだ見ていない)。総苞片は線形で、黒色毛が目立つ。

本種の和名は、化粧品表示名称 (Cosmeric-Info. jp URL: <http://www.cosmetic-info.jp/jcfn/detail.php?id=6046>) やハーブの本 (萩尾 2000) では、ケミヤマコウゾリナという名称が使用されているが出典は分からない。ウズラバタンポポを除くわが国に帰化した種は、最近、ミヤマコウゾリナ属 (*Hieracium*) から独立させコウリントンポポ属 (*Pilosella*) とする説があり、この場合、この名称は混乱の一因となる。また、わが国の園芸店などでチシマタンポポ (千島タンポポ) やヒエラキウム・アルピナムが山草類として流通しているが、私が入手したものはすべて *H. pilosella* L. であった。*H. alpinum* L. は欧州原産で、主に高山地帯に生育し、走出枝を出さないこと、葉はサジ形、基部は翼のある葉柄となるとされ、私のみたものはこれには当たらない。しかし、*H. alpinum* L. がチシマタンポポとして栽培されている可能性も否定できない。このような理由から、*H. pilosella* L. に対して、五十嵐 (2010) が提唱したハイコウリントンポポの和名を採用することにした。

五十嵐 (2010) は「2010 年、札幌、苫小牧市両市内で逸出し、ともに園芸種の逃げ出し環境ではなく、芝生吹き付け由来の環境である」と述べている。中山 (2004) は「三重県安芸郡美里村家所で、10 数年前に道路をつくるため山を切った砂岩の崩壊土からなる斜面の最下部分に幅 1 m, 長さ 10 m にわたって群生している」と報告しており、明らかに意図的な持ち込みと判断できる。筆者も兵庫県三田市内の自然公園内において、遊歩道周囲にハイコウリントンポポとフランスギク *Leucanthemum vulgare* Lam. とが大量に持ち込まれている現場をみている (植村 2010)。同地では貧栄養の法面でハイコウリントンポポは順調な生育を示している (図 3)。今後も、緑化と景観美化とを兼ね備えたワイルドフラワーの素材として本種が大量に使用されると思われる。自然界で量的に多く使用される場合、たとえば植林、防風、砂防、花いっぱい運動などの目的で使用される時はその影響力が大きく、保護すべき生物種が生きる環境では、使用する種をある程度規制すべきであると考えられる。

小橋 (2010) は「1 つに花茎に頭状花が単生するものが



図1 ウズラバタンポポ（栽培品種レオパード）（左） 撮影データ：2009年5月5日 大阪府箕面市（栽培）
ウズラバタンポポの実生（右） 撮影データ：2010年12月11日 石川県加賀市

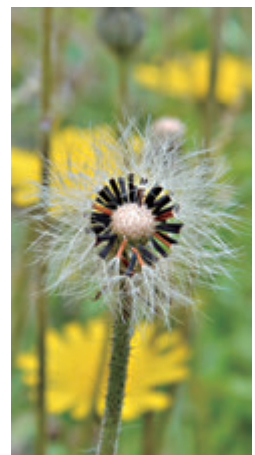


図2 ハイコウリタンポポ 撮影データ：2012年5月19日 右3点：6月2日 兵庫県西宮市 水田光雄撮影

多いが、中にはそれが途中から分岐するハイコウリタンポポ類似の植物」を採集している。また、同じような植物は北海道でも見つかっている（Anonymous 2013）。欧州にはハイコウリタンポポに類似し、1つの花茎が分岐して複数の頭状花をつける欧州に分布する *H. flagellare* Willd. という種があり、これは北米に帰化している（Wilson 2006）。しかし、わが国で観察された花茎が分岐する個体がこの種にあたるのか、ハイコウリタンポポの種内変異なのか、あるいは次に述べる雑種起源の種なのかについては判断しかねている。

雑種個体は不稔となり種子ができないため、多年生で栄養繁殖するものでなければ1代限りで絶えてしまう。ところが、一部の植物では受精を伴わない無融合種子形成によって種子を作るアポミクシスという現象が知られている。この場合、雑種個体であっても種子が形成され、その実生でクローン（栄養系）ができる。種子によるため、雑種の広範囲あるいは長距離分散が起こる場合も多い。それぞれの雑種に由来するクローンは、多くの場合、互いに形態が異なり、生殖的にも隔離されることが多い。このようなアポミクシスが関係すると、1, 2年草であっても雑種の個体群が自然界で維持される。たとえば、ヒメジョオン *Erigeron annuus* (L.) Pers., ヘラバヒメジョオン *E. strigosus* Muhl. ex Willd. はともに多年

生ではないが、アポミクシスによる繁殖により両種間の雑種が多様な中間タイプとして野外で維持されている（津山・村瀬 1951）。

ミヤマコウゾリナ属の雑種はいずれも多年生で、アポミクシスにより風散布型の種（瘦果）をつくれれば、それが

※4頁につづく



図3 法面に播種されたハイコウリタンポポとフランスギク 撮影データ：2011年6月5日 兵庫県三田市

●「ミニ山野草図鑑」内容見本（原寸を60%に縮小したもの）（草本）

シナノナデシコ 【ナデシコ科】
(ミヤマナデシコ)

Dianthus shinanensis Makino
多年草。成長期間4～10月。高原や山の川原などに生育する。葉は下部で分枝して叢生し、高さ20～40cm、ほぼ四角状で節はふくれ、下部は赤紫色を帯びる。葉は対生し、線状披針形～広線形で先は尖り、全縁、無毛、基部は左右の葉がゆう合して鞘となって茎を抱く。花期7～8月。葉頂に多数の花が密につき、かくの基部には尾状に伸びる苞が4個ある。かくは円筒形で5裂、花弁は5個、爪部が長く、拡大部の先端に歯牙がある。喉部の近くには毛が集まってつく。中部地方に多いことからこの名がある。【分】本(中部)



▲花は密につき美しい(87.7.26.山梨県白根)

ハマハコベ 【ナデシコ科】

Honkenya peploides Ehrh. var. *major* Hook.
多年草。成長期間4～8月。海浜の砂地や隙地に生育する。葉ははぶくし長さ15～30cm、叢生して直径30～60cmの団塊をつくる。葉は平滑、無毛で1個に溝があり、節間は3～5cmで葉を対生する。葉身は厚肉した卵形で鋭頭、全縁、長さ2～3.5cm、幅1～1.5cm、基部は茎を抱く。花期5～6月。葉頂や葉腋からでる枝先に集散花序をつくり多数の花をつける。花弁は5個、白色で先は浅く2裂する。かく片5個で鋭頭。雄しべ10個。海岸にはえるのでハマ(浜)ハコベという。【分】北、本(北部)



▲左：花、大きな株になる(81.7.26.北海道留寿)

マルミノヤマゴボウ 【ヤマゴボウ科】

Phytolacca japonica Makino
多年草。成長期間4～10月。山地の林縁や路傍の草むらなどに生育する。根はゴボウのように太い直根。葉は円柱状で太く、直立して高さ1m内外、葉は互生、柄があり、楕円状卵形で長さ10～30cm、両端が尖り、厚みがあり、葉・葉ともに無毛。花期5～6月。上部の葉のつけねの反対側に花茎を出して先に円柱状の花穂をつけ淡紅色の花を密につける。花はかく片5個、花弁はない。液果は球形で熟すと紫黒色となる。【分】北、本、四、九



▼花は淡紅色(80.5.15.埼玉原正丸峠)

フタリスズカ 【センリウ科】

Chloranthus serratus Roem. et Schult.
多年草。成長期間5～9月。森林地帯や里山の林床に生育する。葉は緑色、無毛で直立し、ほとんど分枝がなく、数個叢生し、高さ30～50cm。葉は茎の上方につき、下側の葉は鞘状の鱗片葉として残る。葉身は楕円形で先が尖り、長さ14～17cm、幅8～9cm、細かい鋸歯がある。葉は有柄で対生。花期5～6月。茎先に2～4個の花穂を出し、白色の花をつける。花は花被がなく、花糸は広卵形で3個あり、長さ約3mmで内面に約がつく。【分】北、本、四、九



▲葉がヒトリスズカのように偽輪生とならない(80.5.31.埼玉黒川山)

ヒトリスズカ 【センリウ科】

Chloranthus japonicus Sieb.
多年草。成長期間3～9月。森林や里山の林床に生育する。葉は叢生し、分枝がなく高さ20～30cm、葉色で上端に2対の葉が相接して輪状につく、葉身は倒卵形で内向する細かい鋸歯がある。暗緑色で光沢がある。花期4～5月。葉や葉がまだ十分伸びない頃花被のない白い花を多数つけ、1個の穂状花序をつくる。雄しべは1個、花糸は3個に分かれ子房の背面につく。子房は1個。ヒトリスズカは花穂が1個なのに対し、フタリスズカは花穂が普通2個(ときに～4個)つくので区別できる。【分】北、本、四、九



▲葉の先に4枚の葉が偽輪生状に生ずる。その先に1個の穂状花序が出る(84.6.25.長野車折)

フタバアイオイ 【ウマノスズクサ科】

Asarum caulescens Maxim.
多年草。成長期間3～11月。林地の木陰や沢などに生育する。葉は細く平滑無毛、葉は茎の先に2枚対生し、長さ6～8cmの柄があり、柄に毛が散生、葉身は心臟状腎形、長さ4～8cm、幅6～15cm、先は尖り基部は半円形をした耳形の両片に分かれる。花期5月。葉の間から長さ15～20mmの花茎を伸ばし1個の花をつける。花は淡紅紫色、直径9～10mm、かく片3個、強くそり返り、かく筒に接する。徳川家のアイの紋章は本種にもとづいたといわれる。【分】北(松前)、本、四、九
(参照：72頁 図)



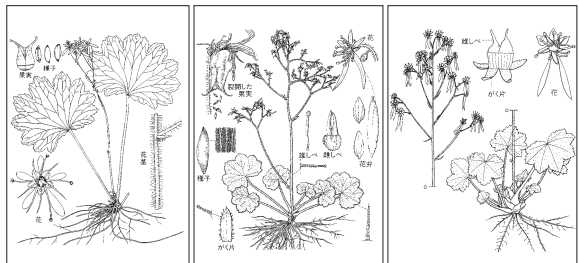
▼群生した状態。花は下向きに咲く(80.5.5.埼玉黒川山)



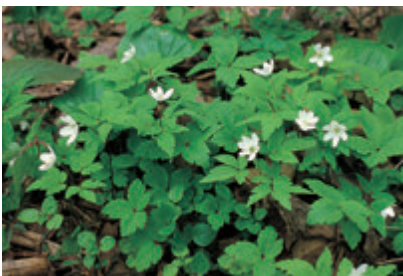
ヒメイチゲ 【キンポウゲ科】
(ヒメイチゲソウ)

Anemone debilis Fisch.
多年草。成長期間4～6月。森林地帯の針葉樹林の林床や高地の草原に生育する。根茎は紡錘形で長さ8～10mm。葉は直立し、高さ5～10cm、茶褐色の伏した毛がある。根生葉は細い柄があり3出複葉で広卵形、不整な鋸歯がある。花期4～5月。茎先に3個の輪生する総苞葉を出し、中心から花柄を出し1個の花をつける。総苞葉は3裂、長さ20～30mm、縁に少数の低い鋸歯がある。花は白色で直径10mm、かく片は花弁状で5個、長さ5～6mm。花弁はない。【分】北、本(中部以北)

▲全体が小さい(83.5.4.栃木日光龍峯(原)、内：葉葉(6.16)



▲ダイモンジソウ 【線画】 ▲イヌノシマダイモンジソウ 【淡写】 ▲ジンジソウ 【天野】



エゾイチゲ 【キンポウゲ科】
(ヒロハヒメイチゲ)

Anemone soyensis H. Boiss.
多年草。成長期間5～9月。低山帯の落葉広葉樹林の林床などに生育する。葉は単一で直立、高さ15～20cm、上部に毛がある。葉の上部に3個の総苞葉をつけ、総苞葉は広卵形、基部は心形で3全裂、葉柄があり、小葉の縁に粗い鋸歯があり、表面に短毛がある。根生葉は柄があり2回3出複葉。花期6～7月。茎先に長さ3～4cmで短毛がある1個の花柄を出し、直径22～25mmの白色の花をつける。花弁状のかく片は5～7個、長さ10～12mm。ヒメイチゲに似るが、葉の幅が広く、全体に毛が多く、花もやや大きい。【分】北

▲ヒメイチゲより葉の幅が広い(81.6.10.北海道石狩府産) (高岡)

▼花を1個つけるのでイチリンソウ(一輪草)、かく片は5だが6もある(4.20.千葉県千葉市)



▲花の形が「人」の字に似ている(82.10.20.神奈川県丹沢)



▲葉の縁が薄く中裂する(82.10.26.神奈川県黒根)



イチリンソウ 【キンポウゲ科】
Anemone nikoensis Maxim.

多年草。成長期間3～6月。山地の林内や林縁、草地、土手などに生育する。根生葉には長い柄があり、葉身は1～2回3出複葉、小葉は卵形で羽状に深裂し、花時には枯れる。葉は単生し、上部に3個の総苞葉を輪生、総苞葉は柄があり1回3出複葉、小葉は卵形で羽状に中～深裂し縁に粗い鋸歯がある。葉、葉は無毛。花期4～5月。総苞葉の中央から花柄を伸ばし、先に白色の直径4cmの花を1個つける。かく片は花弁状で5個、外側はしばしば淡紫色を帯びる。雄しべは多数で短く、花の中央に集まる。花弁はない。【分】本、四、九

ジンジソウ (モミジ(ダイモンジソウ)) 【キクノシタ科】
Saxifraga cortusaefolia Sieb. et Zucc.

多年草。成長期間4～11月。山地の谷間や岩壁などに生育する。葉は根生し、長い柄があり、腎円形～円形。7～11に浅裂または中裂し、基部は心形、裂片には欠刻状の鋸歯がある。葉柄、葉、花茎にまばらに毛があり、葉肉中をルーペで見ると針状の結晶がある。花期9～10月。高さ10～30cmの花茎を出し、先が分枝して円錐花序をつける。花柄には腺毛がある。かく片は5深裂、裂片に毛がある。花弁は5個で白色、上側の3個は小さくて卵円形、基部は柄(爪)のようになり、下側の2個は大きくて、細い披針形、長さ約3mm片方がわずかに短い。この花の形が「人」の字に似ているので人字草という。ダイモンジソウとは、本種は上側の3個の花弁に柄があり、葉肉中に針状の結晶がある点で区別できる。【分】本(関東以西)、四、九

ウチワダイモンジソウ 【キクノシタ科】
Saxifraga fortunei Hook. fil. var. *obtusocuneata* Nakai

多年草。成長期間4～11月。山地の川沿いなどに生育する。葉は根生し、長い柄があり、葉身は卵円形または円卵形で、幅は長さより短く、3～7に浅～中裂し、縁に欠刻と鋸歯があり、基部は楔形または切形、表面にはやや硬い毛がまばらにある。花期7～10月。花茎は直立し、赤褐色を帯び、上部で分枝して多くの花をつける。かく片5個、花弁は披針形で5個、うち3個は小さく、2個は大きい。雄しべ10個。葯は橙黄色。【分】本、四、九

広範囲に分散される。ヨーロッパでは、コウリタンポポ、キバナコウリタンポポ、ハイコウリタンポポについては、全ての組合せで雑種が報告されている (Sell et Went 1964)。わが国でキバナコウリタンポポと呼ばれている植物にも、すでに複数の種あるいはアポミクシスによる雑種が含まれていると筆者は考えている。

今後わが国においても、コウリタンポポあるいはキバナコウリタンポポの生育地へ、ハイコウリタンポポが分布を広げる可能性が高い。それに伴い、3種間における交雑のチャンスが増加する。その結果、多様な雑種が混在して生育するようになり、種の扱いが複雑化することが予想される。

○ミヤマコウゾリナ属の雑種 (Sell et Went 1964)

キバナコウリタンポポ×コウリタンポポ

Hieracium×*fuscatum* Naegeli et Peter

キバナコウリタンポポ×ハイコウリタンポポ

Hieracium×*duplex* Peter

コウリタンポポ×ハイコウリタンポポ

Hieracium×*stoloniflorum* Waldst. et Kit.

主な参考文献

- Anonymous 2013: 「朱鞠内湖」キャンプ場の情報 blog 週末は良い天気? キバナコウリタンポポ 帰化植物です。、<http://syumari-c.cocolog-nifty.com/blog/2011/06/index.html> (アクセス日: 2013年1月5日)。
- 萩尾エリ子 2000: ハーブの図鑑, 池田書店。
- 浜口哲一 2001: ヤナギタンポポ属 *Hieracium* L., 神奈川県植物誌調査会, 神奈川県立博物館 (編), 神奈川県植物誌 2001, 神奈川県立生命の星・地球博物館。
- 本多郁夫 2012: [naturplant: 5214] 石川県の新帰化植物ハイコウリタンポポ? (アクセス日: 2012年6月8日)。
- 五十嵐博 2010: [naturplant: 4679] Re: *Hieracium pilosella* L. が兵庫県に帰化 (アクセス日: 2010年8月30日)。
- 北村四郎 1981: キク科, 佐竹義輔ら, 日本の野生植物 草本 III 合弁花類, 平凡社。
- 小橋理絵子 2010: [naturplant: 4682] Re: *Hieracium pilosella* L. が兵庫県に帰化 (アクセス日: 2010年8月31日)。
- 増田和明 2012: [naturplant: 5193] 改めて, 不明の外來種 2種の画像 (アクセス日: 2012年5月29日)。
- 水田光雄 2012: [naturplant: 5183] ハイコウリタンポポの産地追加 (アクセス日: 2012年5月23日)。
- 持田 誠 2012: [naturplant: 5199] Re: 増田氏のキク科植物について (アクセス日: 2012年5月31日)。
- 中山幸則 2004: [naturplant: 1978] *Hieracium pilosella* L.? の確認, 帰化植物メーリングリスト (アクセス日: 2004年8月25日)。
- 長田武正 1972: 日本帰化植物図鑑, 北隆館。
- 笠康三郎 2004: [naturplant: 1979] *Hieracium pilosella* L.? について, 帰化植物メーリングリスト (アクセス日: 2004年8月28日)。
- P. D. Sell et C. Went 1964: *Hieracium* L., T. G. Tutin et al., Flora Europaea Volume 1 Lycopodiaceae to Platanaceae, Cambridge University Press.
- 清水建美 2003: タンポポ連 Trib. Lactuceae, 清水建美, 日本の帰化植物, 平凡社。
- 菅野登志子 2010: [naturplant: 4681] Re: *Hieracium pilosella* L. が兵庫県に帰化 (アクセス日: 2010年8月31日)。
- 津山 尚・村瀬昭代 1951: ヒメジョオン等の群の多型性について (第3報), 資源科学研究所業績 (23): 1-7。
- 植村修二 2010: [naturplant: 4677] *Hieracium pilosella* L. が兵庫県に帰化, 帰化植物メーリングリスト (アクセス日: 2010年8月30日)。
- L. M. Wilson 2006: Key to identification of invasive and native Hawkweeds (*Hieracium* spp.) in the Pacific Northwest, http://www.for.gov.bc.ca/hfp/publications/00230/Hawkweed%20key_PNW_R3-June06.pdf (accessed 4 Jan. 2013)。

—— 全農教出版ニュース ——

お待たせいたしました。「全農教・日本帰化植物友の会通信 No. 10」で予約募集をしました、「ミニ山野草図鑑 — 離弁花編 —」が、遅くなりましたが発刊いたしました。

昨年、予約特別価格で募集いたしましたところ、多数の皆様からご予約をいただきまして誠にありがとうございました。厚くお礼を申し上げます。

昨年の「日本帰化植物友の会通信 No. 10」では、「ミニ山野草図鑑」は次のようにご案内しておりました。「既刊の「日本山野草・樹木生態図鑑」を基にして、これからシダ類・樹木を除き、丘陵地、高原、山地に生育する草本（一部低木を含む）山野草と、最近普通に見られるようになった帰化植物と、姉妹編の「ミニ雑草図鑑」に掲載した雑草を除く。約 670 種類の山野草と帰化植物を収録。248 頁、定価 2,835 円（税込）」。

ところが編集が進むにつれて、“山野草が生育する山地では雑草もかなり共生している。同じ場所に生育

しているこれらの低木類や雑草も多く記載した方が山野草図鑑としては利用価値が高まるのでは”と気がつきました。従来の山野草図鑑として発行されているものでは、低木や雑草は樹木の方に入っていて別冊になっています。丘陵地や高原・山地を散策するときには、低木や雑草類が一緒になっていると便利です。そこで、できるだけ多く低木や雑草を多く入れることに変更しました。こうしたことから、当初の予定より思わぬ時間がかかり、発行が遅れてしまいました。

その結果、収録した種類数も当初よりも増えました。草本類の他に低木や雑草数が約 130 余種が入り、予定よりも収録種で約 60 余種、頁数も約 10 頁多くなりました。

姉妹編「ミニ雑草図鑑」掲載種 500 余種、「ミニ山野草図鑑」掲載種 670 余種、2冊あわせると 1,170 余種の里山植物、山野草、帰化植物を調べることができます。

「ミニ山野草図鑑〈離弁花編〉」

廣田 伸七 編

●A5判・256頁

●定価 2,900円+税

●収録山野草 低木, かん木種類 670余種

●掲載写真点数 約1,000余点

●本書の特長

- 1) 本書は「ミニ雑草図鑑」に掲載した約500種の耕地雑草(人里雑草)を除いて、山野草(草本), 低木(アジサイ類, イチゴ類, ウツギ類など), かん木(ウルシ科, ニシキギ科, グミ科, ウコギ科など)約670余種を収録し、「ミニ雑草図鑑」と合わせると1,170余種の人里植物と丘陵地, 高原, 山地の植物を調べることができる。
- 2) 索引は「ミニ雑草図鑑」に収録した種と, 本書に収録した種を合わせて一緒に掲載してある。
- 3) 似た草がある場合, その区別点を表や図を使って分かりやすいように工夫してある。

●「ミニ山野草図鑑」内容見本(原寸を60%に縮小したもの)

ヒロードボタンツル

【キンボウゲ科】
Clematis leschenaultiana DC.
半常緑のつる植物。成長期間3~11月。広葉樹林内に生育。茎は他物にからみついて伸び、長さ4~7m、若い茎には毛が密生する。葉は有柄の3出複葉(まれに単葉)で対生。小葉は卵やゆがんだ卵状楕円形~卵形、長さ4~10cm、幅3~6cm、縁に粗い鋸歯がありときに3鋭する。花期2~5月。葉脈に1~5個、黄緑色で直径3~4cmの花をつける。がく片は楕円状披針形で鋭尖頭、長さ約1.5cm。【分】九(南部)、沖



▲全体に毛が多い(83.128.沖繩本島) [池原]

サンカヨウ

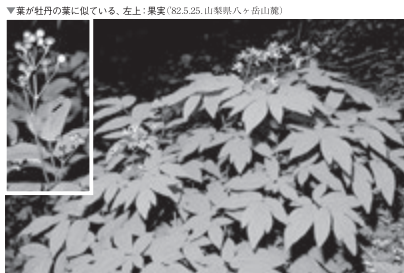
【マギ科】
Diphyleia grayi Fr. Schm.
多年草。成長期間5~9月。丘陵帯の林地や高山帯の草原に生育する。茎は太く直立し、高さ30~60cm。葉身は大形で長さ25cm、幅30cm、両端が深く切れ込み縁に歯牙がある。全体に短い毛がある。花期5~6月。茎先に散形状の花序を出し、直径約2cmの白色の芳香のある花をつける。花弁は5~6個で倒卵形。果実(液果)は球形、直径14~16mm、青黒色で粉白色を帯び、中に5~6個の種子を含む。【分】北、本(中部以北)



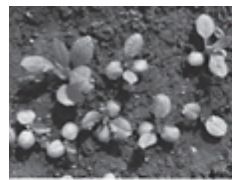
▲茎は1株1本で直立する(82.6.11)。円内:果実(82.7.14.長野県志賀)

ルイヨウボタン

【マギ科】
Caulophyllum robustum Maxim.
多年草。成長期間5~9月。山地の落葉広葉樹林内に生育する。茎は平滑無毛で直立し、高さ40~70cm、基部に数個の鱗片葉がある。葉生葉は2個で上部につき、下の葉は3回3出、上の葉は2回3出の複葉、葉身は長さ幅ともに20~30cm、小葉は膜質で薄く、裏面は帯白色、ときに2~3裂し全縁。花期5~7月。茎頂に花が集まって集球花序をつける。花は黄緑色、直径は18~22mm、がく片、花弁ともに6個。がく片は大きく花弁状。花弁はがく片と対生し、縮小して鱗片状。【分】北、本、四、九



▼葉が牡丹の葉に似ている。左上:果実(82.5.25.山梨県八ヶ岳山麓)



開花期、花は葉と葉の間に咲く
幼植物、毛が多くある



ハナイバナ

【ムラサキ科】
Bothriospermum tenellum Fisch. et Mey.
1年草。畑地、庭、道端などに普通に生育する。茎は下部で多数に分枝して地表をほうように伸び、高さ10~30cm。上向きの毛がある。葉は互生し葉柄は短い。長楕円形~楕円形で両面に細かい毛が密生する。3~11月に枝先に穂状のようになって花がつく。穂の先まで葉(正しくは苞)がありその葉と葉の間に1個ずつ花がつくのでハナイバナ(葉内花)という。【分布】全国



生育中
生育初期、葉柄が長い



開花期、花が開くにつれ花穂が伸びる
成植物、これから花が咲く

キュウリグサ

【ムラサキ科】
Trigonotis peduncularis Benth.
越年草。畑地や道端、あき地などに普通に生育する。主に秋に発生し、翌春茎が立つ。茎は根もとから数本叢生し高さ10~30cm。葉は根もとに多く集まり、長楕円形~卵形で長さ1~3cm。全体に細かい毛がある。3~5月に枝先に多くの淡紫色の花をつける。はじめは先がわず巻状に花穂が巻くが、開花していくにつれて長く伸び、花はまばらにつく。【分布】全国



●「ミニ雑草図鑑」も発行記念特価として割引販売をします。同封葉書参照。

●姉妹編の「ミニ雑草図鑑」の内容見本(原寸を50%に縮小したもの)

ヤマシャクヤク

【ボタン科】
Paeonia japonica Miyabe et Takeda
多年草。成長期間5~9月。山地や林地に生育する。茎は1本立ちで平滑無毛、高さ30~50cm、基部に少数の鱗片葉をつけ、上部に3個の有柄複葉を出し、長さ幅とも10~25cm。葉身は1回または2回3出の奇数羽状で、1個の複葉は5~9個の小葉からなる。小葉は倒卵状楕円形、両面とも平滑無毛、裏面は粉白色。花期5~6月。花茎の先に直径4~5cmで白色の花を1個つける。花弁5~7個、卵形で長さ3.5~4cm。がく片は卵形で3個。類似種に花が淡紅色のペニバナヤマシャクヤクがある。【分】北、本、四



▲全体がシャクヤクに似ている(82.5.25.長野県茅野)。円内:葉葉(82.6.5)

サダソウ

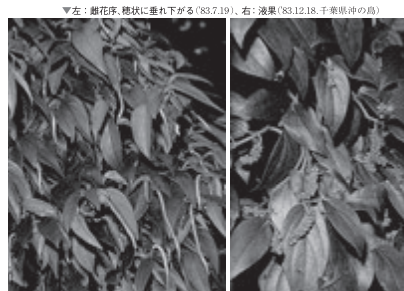
【コショウ科】
Peperomia japonica Makino
常緑多年草。成長期間3~11月。石灰岩地域の広葉樹林の林下に生育する。茎は緑色円筒形で柔毛を密生し高さ15~35cm。葉は柄があり、対生または3~4個輪生。葉身は下部のものは広卵状楕円形、上方のものは倒卵形~倒卵状楕円形、長さ1.5~4cm、幅1~2.5cm、全縁、基部は円形~切形。やや肉質で厚く、両面に柔毛を密生する。花期2~6月。花穂は細長い円柱形で長さ3~8cm、直径約2mm。花冠は微小で淡緑色、雄しべは2個、果実は球形。【分】四(高知県)、九、沖



▲葉は厚みのある多肉質(80.5.16.沖縄本島) [池原]

フウトウカズラ

【コショウ科】
Piper kadsura Ohwi
常緑木本をつる植物。成長期間3~11月。暖地の海岸に近い林地に生育し、樹木や岩などにはいあがる。茎は節から根を出して地上を這ったり、樹木や岩などにまわりついて伸び、長さ数mに達する。葉は柄があり互生、若い葉は円形形で裏面に毛があり、古い葉は卵形~長楕円形で裏面に毛がない。長さ5~10cmで全縁。花期6~7月。雌雄異株。葉と向かいあって長さ3~8cmの穂状花序が垂れ下がり、細かい花を多数つける。液果は球状で多数集まって穂状になり、冬に赤く熟す。液果は薬用に利用する。【分】本(関東南部以西)、四、九、沖



▼左:雄花序、穂状に垂れ下がる(83.7.19)。右:液果(83.12.18.千葉県沖島)

●「ミニ山野草図鑑」内容見本 (原寸を60%に縮小したもの) (低木類)

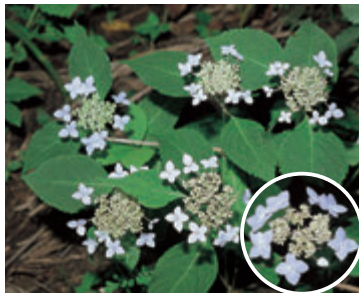


▲花序の周囲の装飾花(中性花)がよく目立つ(80.6.24,千葉県大房町)

ガクアジサイ

[ユキノシタ科]

Hydrangea macrophylla Ser. f. *normalis* Hara
落葉低木。成長期間4～10月。暖地の海岸や海に近い山地に生育し、庭などに栽培もされる。葉は叢生し、よく分枝して大きな株になり、高さ2m内外、若い枝には緑色で紫褐色の斑があり、微毛があるか無毛、葉は中空でない。葉は柄があり対生、卵形～広卵形で先は鋭く尖り、縁には鋸歯があり、長さ10～20cm、質はやや厚く、無毛で光沢がある。花期6～7月。枝先に直径12～18cmの散房花序をつける。花序の周囲に数個の装飾花(中性花)、中央に多数の両性花をつける。装飾花は花弁状のがく片4～5個をもち、白色または青紫色で直径3～5cm。両性花はがく片、花弁5個で花弁は碧色。【分】本(房総半島、三浦半島、伊豆半島、伊豆七島、和歌山県神島)、四(足摺岬)



▲装飾花のがく片は青色～淡青色。円内:花(81.7.26,北海道留辺)



▲若い枝には紫褐色の斑がある。円内:花(80.7.12,山梨県清里)

エゾアジサイ

[ユキノシタ科]

Hydrangea macrophylla Ser. var. *megacarpa* Ohwi
落葉低木。成長期間5～9月。山地の渓流沿いに多く生育する。葉は平滑、無毛、分枝して株状になり、高さ1～1.5m。葉は対生、長い柄があり、葉身は楕円形～広楕円形で先は尾状に鋭く尖り、縁に粗い鋸歯があり、無毛で光沢はない。長さ10～15cm、幅5～9cm。ヤマアジサイより葉が大きくて広い。花期7～8月。枝先に直径10～19cmの散房花序をつける。花序もヤマアジサイよりも大きい。花序の周囲の装飾花(中性花)は直径2.5～4cm。がく片は花弁状で3～5個、青色で長さ12～20mm。両性花はがく片小さく、5個ある。ガクアジサイより装飾花の青色が濃く鮮やかである。【分】北、本(青森県～京都府までの日本海側)

ヤマアジサイ(サワアジサイ)

[ユキノシタ科]

Hydrangea macrophylla Ser. var. *acuminata* Makino
落葉低木。成長期間4～10月。山中のやや湿った樹陰に普通に生育する。葉は叢生し、株になって高さ1m内外。葉は柄があり対生、長楕円形で長さ7～13cm、先は尾状に尖り、縁に鋭い鋸歯があり、両面の脈上に短毛を生じ、裏面主脈の脈腋に密毛がある。質は薄く、光沢がない。花期6～8月。葉先に直径約10cmの散房花序をつける。周囲の装飾花(中性花)の直径は2～3cm、がく片は花弁状で3～5個、青色または白色。両性花のがく片、花弁は各5個。【分】本(関東以西)、四、九

イワガサ

[バラ科]

Spiraea blumei G. Don
落葉低木。成長期間4～10月。日当りのよい山地や海岸の岩場などに生育する。庭木としてもよく植えられる。枝はよく分枝し、高さ1～1.5m、稜角はなく、若枝は無毛かほとんど無毛、古い枝の樹皮は縦に剥けてはげける。葉は柄があり互生、菱状卵形～広倒卵形～長楕円形、長さ1.5～3cm、幅1～3cm、上半部に不整な鋸歯または欠刻があり、基部は鈍形～広楔形、両面無毛か毛がある。花期4～5月。葉先に直径2～4cmの散房花序を出し、白色の花を密につける。がく片は5個、三角状。花弁は5個で白色。雄しべ20個。【分】本(近畿以西)、四、九



▲岩場にはえ、花序が傘形なのでイワガサという(89.5.5,東京都八王子:植栽)

エゾシモツク

[バラ科]

Spiraea media Schmidt var. *sericea* Regel
落葉低木。枝はよく分枝して株になり、高さ50～100cm。葉身は長楕円形～狭卵状楕円形で全縁または先端に1～2対の鋸歯がある。花期6～7月。本年枝の先に多数の白色の花をつける。シモツクに似るが、シモツクは花が淡紅色、本種は白色。【分】北、本(北部)



▲マルバシモツク(122頁) [図説] ▲エゾシモツク(125頁) [図説] ▲ナガシモツク(123頁) [図説]

アイツシモツク

[バラ科]

Spiraea ussuriensis A. Pojark.
落葉低木。成長期間4～10月。本州中部以北の山地や林縁に生育する。幹は直立し、枝を広げて、高さ1～1.5m、若枝には稜角があって角ばり、短い毛があるかまたは無毛。葉は互生し柄があり、狭卵形～広楕円形で鋭頭、長さ3～6cm、下部は全縁だが上部には鋭い重鋸歯があり、両面特に裏面の脈上に軟毛を生じ、葉柄にも多少毛があり、表面緑色で裏面は淡緑色。花期5～6月。本年枝の先に散房花序をつける。花序には短毛があるが後に無毛。がく片は5個、短毛がある。花は直径1cm内外、花弁5個、白色。雄しべは多数で花弁より長い。和名は福島県会津地方で最初に発見されたことによる。



▼枝は分枝して、横に広がる(82.5.25,山梨県八ヶ岳山麓)

エビガライチゴ

[バラ科]

Rubus phoenicostictus Maxim.
つる性落葉低木。成長期間5～9月。山地に生育する。葉は赤褐色を帯び、長さ80～120cm、全株に赤紫色の堅い腺毛が密生し、腺毛の間に鋭い刺が散生する。葉は3出の複葉で、表面は緑色でまばらに毛があり、裏面は白色の綿毛が密生して白っぽく、脈上に刺が散生、長さ10～25cm、幅6～10cm、頂小葉はもっとも大きく広卵形、先は尖り、長さ5～13cm、幅4～9cm、側小葉は卵形で基部円形。縁には切れ込み状の鋸歯がある。花期7月。葉先に総状花序をつけ淡紅紫色の花をつける。がく片5個で腺毛がある。花弁5個。果実は球形で赤く熟し、食べられる。葉や葉柄、がくに紅紫色の粗毛が多くあるので、これをエビの殻にたとえて蝦殻母の名がある。【分】北、本、四、九



▲葉は総状につく(80.8.3,山梨県清里)、若いつぼみ

ヒメゴウユイチゴ

[バラ科]

Rubus pseudo-japonicus Koidz.
多年草。成長期間4～10月。低山帯から高山帯にかけて林内や草原に生育する。葉は直立し、高さ20～50cm、下向きの毛はあるが刺はない。基部から長さ1～2mのほふく茎を出し、所どころから幼芽と根を出す。葉はほぼ円形で直径8～13cm、掌状に5裂し両面に軟毛があり、小葉は菱状倒卵形で縁に粗い鋸歯か重鋸歯がある、先端は尾状に尖る。花期5～6月。花の直径15mm。がく片は7個、短毛が密生し、花後に反曲する。花弁は7個、白色。果実は赤く熟す。【分】北、本(北部・中部)



▲小葉は5個で、茎葉に刺がない(81.6.10,北海道石狩市清里) [図説]

ナワシロイチゴ

[バラ科]

Rubus parvifolius L.
つる性落葉低木。成長期間3～9月。野原や低山帯の林縁、平地の路傍や果樹園などに生育する。葉は長く地面をはい、四方に広がる。長さ30～100cm、小さい刺が多くある。葉は互生、葉は普通は3枚の小葉からなる羽状複葉だが、ときに5枚のものもある。葉柄にも刺があり、基部には托葉がある。小葉の縁には切れ込み状の粗い歯があり、ときに2裂または3裂する。花期5～6月。枝先に淡紅紫色の花をまばらにつける。がく片の表裏両面に毛が密生。花弁は5個で淡紅紫色。果実は数粒が集まって球形で熟すと赤くなり食べられる。【分】北、本、四、九



▼ナワシロイチゴ 円内:果実

マルバハギ

[マメ科]

Lespedeza cyrtobotrya Miq.
落葉低木。成長期間4～11月。山地の日当りのよい所に生育する。葉はよく分枝し、高さ0.7～2m、枝は長く伸びて垂れ下がり、葉には縦の稜があり短毛がある。葉は柄があり互生、3出複葉、小葉は楕円形、卵形、倒卵形などで先端は円く、通常やや凹み、頂部に針状の毛があり、縁は全縁、頂小葉が最も大きく、長さ3～4cm、幅2～2.5cm。葉柄や葉の裏面には白い毛があり、縁は主脈上に密生する。花期8～10月。葉腋から葉よりも短い総状花序を出し、蝶形花を密生してつける。がく片は深く4裂。花弁は紅紫色。類似種のヤマハギは花序が葉よりも長いので区別できる(「ミニ雑草図鑑」141頁参照)。【分】本、四、九



▲名前のとおり小葉は円みを帯びる(83.8.30,山梨県大泉)

マキエハギ

[マメ科]

Lespedeza virgata DC.
落葉低木。成長期間5～10月。山地の松林や林縁などに生育する。葉は直立または斜上、高さ30～80cm、縦の稜があり、やや角ばって、短い毛がある。葉は柄があり互生、3出複葉、頂小葉は大きく長さ1～2cm、幅0.8～1cm、側小葉はやや小さく、小葉は短い柄があり、長楕円形～楕円形、先は円く、頂部に針状の剛毛があり、基部円形、表面無毛で裏面には短い毛があり、縁は全縁。花期8～9月。葉腋から花輪を出し、数個の花をつける。花は白色またはやや紅色を帯び、通常2個並んで咲く。がくは4深裂し、上側の裂片はさらに2裂し、短い毛がある。また、花とは別に葉腋に閉鎖花を数個つける。【分】本(中部以西)、四、九、沖



▲花は通常2個並んで咲く(83.8.30,山梨県清里)

▼花が大きく美しい(83.9.29,東京都小石川植物園:植栽)

ミヤギノハギ

[マメ科]

Lespedeza thunbergii Nakai
落葉低木。成長期間4～10月。自生もあるが多くの公園や庭などに植えられている。葉は東生して直立し、高さ1～2mで伏毛があり、基部までほとんど草質。花期には枝が垂れ下がり、葉は柄があり互生、3小葉からなる複葉、小葉は狭長楕円形～楕円形で先は尖り、長さ3～5cm、幅1～2.5cm、表面は淡緑色で無毛、裏面は淡緑色で短い伏毛があり、質はやや厚い、縁は全縁。花期8～10月。葉腋から葉よりも長い花序を出し、紅紫色の蝶形花をつける。花は長さ15～18mm。がくは5深裂。【分】本(東北・北陸・中国)



●「ミニ山野草図鑑」内容見本（原寸を60%に縮小したもの）（かん木類）

サンショウ [ミカン科]

Zanthoxylum piperitum DC.
落葉低木。成長期間5～10月。丘陵地から山地にかけての林内や林縁に生育する。若葉は芳香があり食用となる。幹は直立し、高さ3m。枝には葉柄の基部に1対ずつの刺がある。葉は互生、11～19個の小葉からなる奇数羽状複葉、長さ5～15cm。小葉は卵状長楕円形、先端はやや凹み、縁に鈍鋸歯がある。花期4～5月。雌雄異株。枝先に複総状花序をつけ、緑黄色の小さな花を多数咲かせる。花弁はなく、がく片5個。さく果はしわが多く、秋に赤く熟す。果実は香味料として味噌とうらがしなどの原料に利用される。【分】北、本、四、九



▲サンショウ(84.5.26,長野県中村)、左上:果実(84.10.23)

フユザンショウ [ミカン科]

Zanthoxylum armatum DC. var. *subtrifoliatum* Kitam.
常緑低木。暖地の山野に生育する。幹は高さ3m。葉柄基部に著しく基部が広がる扁平な刺を対生する。葉は3～7個の小葉からなる奇数羽状複葉で互生、葉軸には狭い翼があり、小葉は厚みがあり縁に細かい鋸歯がある。花期5月。雌雄異株。葉脈に淡黄色の小さな花を総状～複総状につく。さく果は卵円形で赤褐色、いぼ状の突起がある。冬でも枯れないので、この名がついた。【分】本(本東以西)、四、九、沖
●イヌザンショウ=*Z. schinifolium* Sieb. et Zucc. は形はサンショウによく似るが、葉がなく、むしろ悪臭がある。枝には刺が1個ずつまばらにあり、サンショウのように対につかない。



▲フユザンショウ(86.10.14,茨城県神栖町:植取)、右:イヌザンショウ

ミヤマシキミ [ミカン科]

Skimmia japonica Thunb.
常緑低木。山地の林床などに生育する。幹は直立、分枝し、高さ50～100cm。葉は枝先に集まり、輪生状につき、革質、厚みがあり、長楕円状披針形、鈍頭、基部は楔形、ほとんど全縁で無毛、小さな油点が散在し、表面は光沢があり、長さ7～10cm、幅3～4cm。花期4～5月。雌雄異株。枝の先に円錐花序を出し、多数の花をつける。がく片は4個、長さ0.8mm。果弁は4個、長さ4～5mm。果実は直径8～9mmで、秋に赤く熟す。有毒植物。【分】本(福島以西)、四、九



▲花(82.4.13)、右下:果実(82.5.2,東京都高尾山)

マユミ [ニシキギ科]

Euonymus sieboldianus Blume
落葉低木。成長期間4～9月。林地や林縁に生育する。幹は直立し、高さ2～3m。枝は平滑、緑色で翼はない。葉は対生、柄があり、葉身は倒卵形で無毛、長さ6～15cm、幅4～6cm、先は鈍頭、縁に細鋸歯がある。花期5～6月。昨年に出た枝の葉腋に集散花序をつくり、緑白色の花を多数つける。がく片、花弁、雄しべともに4個。さく果はほぼ四角形で直径8～10mm、熟すと2裂し、朱紅色の仮種子に包まれた種子を現す。雌雄異株で雌株では結実しない。【分】北、本、四、九



▲花期(83.5.9,東京都小石川)、右:果実(83.10.5,山梨県清里)

コマユミ [ニシキギ科]

Euonymus alatus Sieb. f. *ciliato-dentatus* Hiyama
落葉低木。成長期間4～10月。林地や林縁に生育する。幹は高さ1～2m、よく分枝し、緑色、平滑。葉は対生し、ほぼ無柄、葉身は倒卵形で先は鈍く尖り、縁に細かい鋸歯がある。花期5～6月。葉腋に集散花序をつくり、直径約8mmの淡緑色の花をつける。がく片、花弁、雄しべともに4個。花弁は長さ3～3.5mmで淡黄白色。さく果は狭倒卵形、熟すと2裂して中から朱紅色の仮種子に包まれた種子が現れる。全体がニシキギに似ているが、ニシキギは枝にコルク質の翼があるが、本種にはないので区別できる。【分】北、本、四、九



▲花期、内:花(84.6.17,新潟県三田町)、右:果実(10.20,石川県輪島)

ニシキギ [ニシキギ科]

Euonymus alatus Sieb.
落葉低木。成長期間4～10月。平地や山地、丘陵地、林地に生育する。紅葉が美しいので庭にも植えられる。幹は直立か東生し、高さ1.5～3m。新しい枝は緑色で前年枝にはコルク質の4つの翼がある。葉は対生、短い柄があり、倒卵形～広倒披針形、長さ2～7cm、縁に細く鈍い鋸歯があり両面無毛。花期5～6月。葉腋に集散花序をつくり1～数個の花をつける。花は淡黄緑色で直径約5mm、がく片、花弁、雄しべともに4個。さく果は狭倒卵形、熟すと裂開し、橙紅色の仮種子に包まれた種子が現れる。【分】北、本、四、九



▲左上:花(75.6.14)、左下:果実(89.10.23,山梨県大泉)、右:紅葉(89.10.30)

タラノキ [ウコギ科]

Aralia elata Seemann
落葉低木。成長期間4～10月。原野や山地の林縁、雑木林の林内などに普通に生育する。春先の新芽は山菜の代表的なものとして食用にされる。幹は直立し、分枝は少ない。高さ0.5～3m。幹、茎、枝、葉柄などに細長い刺がある。葉は互生。大形の複葉で、幹の先端に叢生し、長さ50～100cm、小葉は卵形～楕円形、長さ5～10cm、各羽片に5～9個つく。花期7～8月。花序は幹の先につき、多数の複総状花序からなる。1個の花序は長さ30～50cm、褐色の短い毛がある。花は花柄の先に散形につき、白色。果実は紫黑色。【分】北、本、四、九、沖



▲左下:生葉初期 若芽は食用になる(86.6.15,東京都神尾山)

メダラ [ウコギ科]

Aralia elata Seemann var. *subinermis* Ohwi
落葉低木。成長期間4～10月。丘陵地や平地の原野、林縁、上手などに生育する。タラノキの変種だが、タラノキよりも普通に見られる。葉は直立し、高さ3～5m、枝分かれは少ない。葉は葉の上部に集まってつき、互生する。大形の2回羽状複葉、表面脈上に黄褐色の縮毛がある。葉柄の基部は広がって葉を抱く。葉の主脈やその他に刺針があるが、タラノキにくらべるとはるかに刺針は小さく、数も少ない。花期8月。幹の先端に散形花序を出し、数個斜開する大きい複総状につける。メダラも若芽は食べられる。



▲花期(87.8.10,千葉県天津小浜)、内:果実

ハリブキ [ウコギ科]

Optunia japonicus Nakai
落葉小低木。成長期間5～9月。主に垂直山帯の針葉樹林内に生育する。幹は太く、直立し、ほとんど分枝せず、高さ60～100cm、下部は淡黄褐色、上部は灰色で光沢がなく、葉に刺針をつけ、刺針は長さ5～10mm。葉身はほぼ円形で長さ15～40cm、幅20～50cm、長さよりも幅の方が広く、基部は楔形、縁は縁状に7～9裂し、裂片の先は尖り、縁に不整の鋸歯につき、両面の脈上に刺針がある。葉柄は長く、刺と毛をつける。葉がワキに似て、刺があるでこの名がある。花期6～7月。茎の先に長さ10～20cmの総状または分枝して総状の散形花序となり、緑白色の小さな花を密につける。花弁と雄しべは5個。花柱は2個。果実は赤く熟す。【分】北、本(中部以北)



▲花期(84.7.10,長野県美郷)

ヤマウコギ(オニウコギ) [ウコギ科]

Acanthopanax spinosus Miq.
落葉低木。成長期間3～11月。人里に近い山野に普通に生育する。幹は分枝して、直立または斜上し、高さ2～4m。枝には平たい刺がある。葉は互生し、短枝では数枚が集まってつき、長い葉柄があり、葉身は掌状複葉で小葉は5個、小葉は倒卵状披針形でやや不揃いで、中央のものが大きく、先は鈍く尖り、縁に低い鋸歯があり、長さ2～7cm、幅1～3.5cm。葉柄は長さ3～7cm。花期5～6月。その年に出た短枝上に、葉柄より短い花柄を出し、散形花序をつける。雄花は花弁5個、雄しべ5個。雌花の花弁は5個で小さく、花柱は上部が2本に分かれる。果実はやや平たい球形に熟す。【分】北(西南部)、本、四

ミヤマウコギ [ウコギ科]

Acanthopanax trichodon Franch. et Savat.
落葉低木。成長期間4～11月。暖温帯の低山や丘陵地にややまれに生育する。葉は直立または斜上し、多くは枝を分け、高さ1～2m。枝は無毛で小さい刺がある。葉は互生、葉柄は赤みを帯びて、小さい刺があり、葉身は掌状複葉で小葉は5個、小葉は倒卵状披針形でやや不揃いで、中央のものが大きく、先は鈍く尖り、縁に低い鋸歯があり、表面の脈上に毛状突起がある。花期5～6月。その年に伸びた枝の先に長い花柄を出し、散形花序をつける。花柄は長枝の先につき、基部の葉は叢生し、花序の小柄は2～3cm。雄花の花弁は5個、雄しべ5個。雌花の花弁は5個、花の直径は3mm、雄しべ5個。花柱は2個。果実は偏扁形で10月頃に紫黑色に熟す。【分】本(関東～近畿地方の太平洋側)



▲左:ヒメウコギ(87.7.8)、右:オカウコギの果実(87.7.8,東京都八王子)



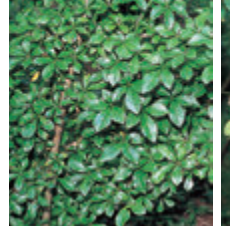
▲ミヤマウコギ(82.7.27,千葉県清波)
▲ヒメウコギ(86.5.29,東京都八王子)
下:果実(86.7.12,東京都八王子)

ヒメウコギ [ウコギ科]

Acanthopanax sieboldianus Makino
中国原産で葉は食用、根を薬用として庭などに植えられるときに野生化している。枝に刺があり、地面に接すると発根して新苗となる。枝は灰白色で無毛。小葉は5個、倒披針形～倒卵状長楕円形、長さ2～7cm、低い鋸歯があり無毛。花期5～6月。短枝の先から葉より長い散形花序を出し、淡緑色の花をつける。果実は球形で黒く熟す。雌雄異株。

オカウコギ [ウコギ科]

Acanthopanax nipponicus Makino
落葉低木。暖地の山野に生育し、高さ2～3m、枝に太い刺があり、無毛。葉は掌状複葉で小葉は5個。倒卵形～倒卵状披針形、長さ2～4cmと小形、中央より先に低い鋸歯があり無毛、無柄。花期5月。散形花序を単生する。花弁5個で淡緑色。果実はほぼ球形で黒く熟す。【分】本(福島県以南)、四、九



(注) 5頁とこの頁はモノクロになっていますが、現物はカラーです。



▲川辺や水湿地に多い(80.5.27.群馬県川原湯)、右下:幼植物



▲葉柄基部に耳部があり、茎を抱く(82.5.5.東京都高尾)

▼葉は柄があり3出複葉、内内:花期(84.5.9.神奈川県丹沢)



コンロンソウ [アブラナ科]

Cardamine leucantha O. E. Schulz.

多年草。成長期間4～9月。山地の林縁や山地の路傍、溪流沿いなどに生育する。茎は直立し平滑でしばしば紫褐色を帯びる。高さ30～60cm。葉は互生、5または7個の小葉をつける奇数羽状複葉で、長い葉柄がある、葉身は長さ15～25cm、両面に毛がある。小葉は長楕円形または広披針形、長さ3～5cm、鋸歯がある。花期5～6月。花は白色、直径7～8mm、多数散房状あるいは総状につく。がく片は楕円形。花弁は倒卵形。**【分】**北、本、四、九

ヒロハコンロンソウ [アブラナ科]

(タデノミコンロンソウ)

Cardamine appendiculata Franch. et Savat.

多年草。成長期間4～9月。山地の溪流沿いや水湿地に生育する。茎は直立し、高さ30～60cm、稜がありほとんど無毛。葉は互生、長い柄があり、5または7個の小葉をつける奇数羽状複葉、小葉は卵形または卵状楕円形、長さ3～5cm、幅1～3cm、先は鈍頭または鋭頭、縁に粗い鋸歯があり、表面に毛があるが裏面は無毛、葉柄基部が耳状に広がり茎を抱く。花期5～6月。茎の上部に十字花を総状につける。がく片は4個で緑色。花弁は4個で白色。類似のコンロンソウとの区別は、コンロンソウは葉の両面に毛があり、葉柄基部は茎を抱かない。ヒロハコンロンソウは葉の表面だけに毛があり、葉柄基部は茎を抱く。**【分】**本(中部、北部)

ミツバコンロンソウ [アブラナ科]

Cardamine anemonoides O. E. Schulz.

多年草。成長期間4～9月。山地の樹林下や溪流沿いなどに生育する。茎は直立し、分枝がなく、高さ10～20cm、無毛で稜がある。葉は根生葉はなく、茎に互生、葉柄があり3出複葉。小葉は卵状披針形または披針形、長さ1～4cm、先は鋭く尖り、基部は楔形か鋭形、縁に粗い不揃いの鋸歯があり、ときに欠刻するものもあり、頂小葉が一番大きい。葉の表面と縁に毛がある。花期4～5月。茎先に柄のある十字花を数個つける。がく片は4個で緑色、長楕円状披針形で長さ約5mm。花弁は4個で白色、長さ約10mm。**【分】**本(関東以西)、四、九

84

● 友の会会員の特典について

日本帰化植物友の会の会員の方には、全国農村教育協会発行の図書については、本体価格の1割引でお送りいたします。全国農村教育協会の図書でご希望のものがございましたら、FAXまたは郵送で注文して下さい(会員番号は宛名シールの下に記入してあります)。

※なお、この特典は書店を通じての注文には適用されませんので、必ず直接申し込んで下さい(送料はかかりません。代金は請求書、振替用紙を同封しますから、現品到着後にお支払い下さい)。

全農教・日本帰化植物 友の会事務局

〒110-0016 東京都台東区台東1-26-6
(植調会館)全国農村教育協会内

代表 TEL 03-3833-1821 FAX 03-3833-1665
事務担当 TEL 03-3839-9160

http://www.zennokyo.co.jp
e-mail: kika@zennokyo.co.jp